

HOT INFORMATION

ほっといんふおめーしょん

動物の話題から—新しい仲間たち

ワピチ (♂1、♀1 旭川市旭山動物園より来園。シフゾウ舎の南側で飼育展示)



▲ オスのワピチ

北米の森林などに生息する大型のシカの仲間です。体重300kgを超し、ヘラジカに次ぐ大きさです。エルクまたはアメリカアカシカの呼び名もありますが、ワピチとは、先住民族の呼び方で「うっすら明るい色のシカ」というような意味のようです。

ハワイガン (♂5、♀5 東京都大島公園より来園。フライングケージで飼育展示予定)

現地では、鳴き声から『ネネ』と呼ばれるハワイ諸島の固有種です。乱獲や捕食動物の移入で一時野生下で30羽程度まで減少しましたが、人工繁殖などの保護活動が実り、絶滅の危機を脱した経緯があります。

(4～5 P特集でも紹介しています)



▲ 大島公園のハワイガン

シフゾウ (♂1 東京都多摩動物公園より来園。シフゾウ舎で飼育展示予定)



▲ 多摩動物公園のシフゾウ

この他、新しいペア形成のためにダイアナモンキー、サンショクキムネオオハシなどを導入予定です。

メス1頭だけの展示が続いていたマリーのお婿さんとしてスエオというオスが近々やってきます。

特集でもご紹介しましたが、自然界では絶滅したシフゾウだけに、種の存続のためには複数の場所での飼育、繁殖を目指すことも必要です。

ペンギンとツキノワグマの繁殖



▲ 初泳ぎするペンギンのヒナ

昨夏、当園では初めて2羽の自然繁殖に成功したフンボルトペンギンが、昨年暮にも別々のペアがそれぞれ1羽ずつヒナをかえました。1羽は先日プールで初泳ぎするなど、順調な成育を見せています。

2/27、冬ごもり中のツキノワグマのカエデが2頭の赤ちゃんを出産しました。順調にいけばゴールデンウイークにはお披露目できるかもしれません。

動物園技術者研究会の開催



▲ 東京都多摩動物公園の発表—コウノトリの義嘴装着—

2/5・6、秋田市で関東・東北地区の動物園や水族館の飼育関係者が集う『技術者研究会』が開催されました。これは互いの飼育技術の向上を目指すもので、希少種の繁殖や治療例などの研究発表の他、飼育展示に動物の視点を生かす改善提案など、興味深い話題が盛り沢山でした。